

子供の運動離れ解消計画～なんでもスポーツマンション～

大阪体育大学 富山ゼミ A

西田 瑛人 森 大輝 馬場 直希 土肥 実生

安高 詩央里 林 聡希 奥村 悠大

1. 諸言

現在、日本の子供の体力は低下が指摘され、大きな社会問題となっている。実際私たちの周りにある公園やグラウンドを見てみると、そこで遊んでいる子供たちはごく少数である。文部科学省が様々な体力向上プログラムを打ち出しているのを見てもわかる通り、日本は国を挙げてその問題解決に取り組んでいる。近年では、健康寿命と平均寿命の差が広がり始めている。週一回の運動をする人は増えてきているが、目標値である 65%までは到達できていない。成人がスポーツに参加するかどうかは子ども時代のスポーツ活動が重要である。そこで私たちは、体力向上を目指す子供たちに焦点を当て、子供の体力向上と運動離れの解消、生涯スポーツに繋げる為の方策について提案を行う。

2. 研究目的

「体育＝スポーツ」の概念を取り払い、子供にスポーツを好きになってもらう。さらに生涯スポーツという面で見ると、成人のスポーツ人口が比較的少ないことから、生涯にわたってスポーツを続けてもらうために、あえて子供にスポーツの楽しさをアピールする計画を各都道府県に向けて提言する。

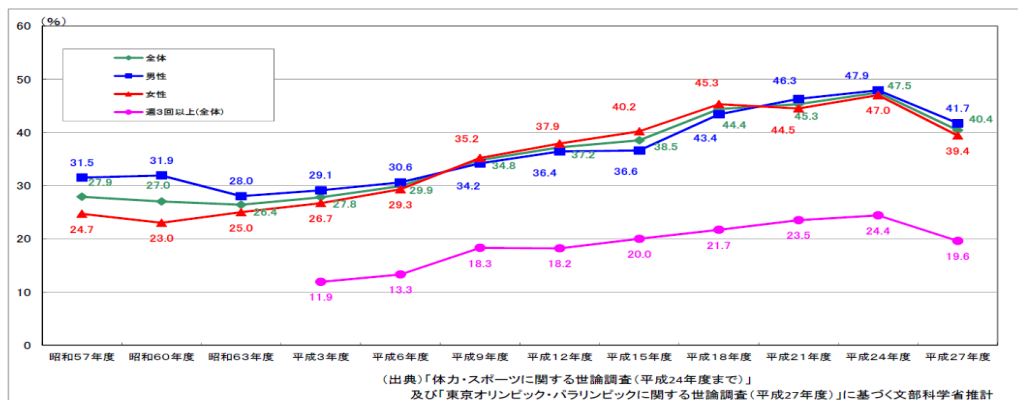
3. 現状

現在の子供のスポーツ事情は、様々な観点から捉えることができる。ここではいくつかの観点到に分けて述べていく。

2-(1) スポーツ人口について

笹川スポーツ財団によると、4～9歳の約半数が週7回以上、運動・スポーツを実施している一方、非実施者も3.7%増加している。そのため子どものスポーツ実施率は減少している。これは少子化問題も関係していると考えられる。子どもは「学校」があり、定期的に運動を行うことができる。問題は成人になっても続けるかどうかである。一方で成人のスポーツ人口はどうか。文部科学省によると、平成27年度の週一回以上スポーツをする人口は、全体の40.4%である。この先この数値を上げていくには、子供のうちから学校体育以外での運動を促していく他にないだろう。またスポーツをしない理由の中には、「運動・スポーツが好きではないから」、「施設・場所

がないから」という理由もあるが、この計画で解消することが見込まれる。



2-(2) 対象者(小学生)の特徴

文部科学省によると「現在の日本の若者・子どもたちには他者への思いやりの心や迷惑をかけないという気持ち、生命尊重・人権尊重の心、正義感や遵法精神の低下や、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されている」とある。

学童期に焦点を置くと、小学校低学年の時期の子どもは大人の言うことを守る中で、善悪についての理解と判断ができるようになる。それと同時に、精神的不安定さを持ち、周りの児童との人間関係をうまく構築できず集団生活に馴染めないという問題が顕在化している。また、小学校高学年の時期の子どもは、物事をある程度対象化して認識できるようになり、身体も大きく成長し自己肯定感を持ち始める時期である。しかし、発達の個人差も大きく見られることから、自己に対する肯定的な意識を持たず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。

2-(3) 対象者(小学生)の運動状況

文部科学省の「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、子供の体力・運動能力は昭和60年から15年以上にわたって低下傾向が続いている。また、運動能力に差が出始めたことで、格差が広がり、二極化傾向が指摘されている。一方で、体育の授業を楽しんでいる児童は全体の約66%であるのに対し、授業以外でも行ってみようと思わない児童が約25%もいる。ここから、体育の授業が楽しいからといってそれ以外での運動をおこなうとは限らないということがわかる。これを解消するには、児童が運動を楽しめるようなプログラムが必要となる。

子供の運動を妨げるのは好き嫌いだけではない。三つの間の減少も問題視されている。三つの間とは、時間・空間・仲間のことである。下記の表はNHK放送文化研究所が行っている「国民生活時間調査」である。それを見ても全体のスポーツ行為者は1995年から2010年にかけてどの曜日も変化はあまり見られない。しかし、

小学生のスポーツ行為者率を見てみると、減少していることが分かる。

図表37 スポーツの行為者率(男女年層別・在学別)

【行為者率】 (%)		平日				土曜				日曜			
		'95	'00	'05	'10年	'95	'00	'05	'10年	'95	'00	'05	'10年
男	国民全体	7	7	8	8	8	8	9	10	10	9	10	9
	10代	18	16	16	15	21	18	25	18	23	20	23	22
	20代	7	8	7	7	10	7	7	9	11	7	12	12
	30代	5	3	5	3	6	8	10	10	11	11	7	6
	40代	5	2	4	7	9	10	5	8	15	11	12	7
	50代	6	4	7	5	11	9	15	9	11	8	15	12
	60代	7	14	14	15	8	9	11	20	10	10	15	14
70歳以上	9	8	10	15	8	12	10	8	9	13	10	10	
女	10代	9	5	11	8	8	8	9	10	8	11	8	7
	20代	4	6	3	2	6	2	2	6	6	7	4	6
	30代	4	5	4	6	6	2	5	7	9	3	4	7
	40代	6	7	5	5	6	5	5	7	7	7	3	3
	50代	8	10	7	8	6	5	4	9	4	6	6	6
	60代	6	12	10	11	6	11	9	11	7	8	10	8
	70歳以上	5	6	8	8	4	6	7	8	5	6	5	5
小学生	27	27	25	21	27	28	34	19	31	31	21	26	
中学生	12	6	12	9	15	11	21	16	14	14	21	14	
高校生	5	4	6	8	7	7	3	11	7	6	9	12	

注) ・男20代は土曜・日曜のサンプルが少なく、誤差が大きいため参考値
 ・小学生、中学生、高校生は土曜・日曜のサンプルが少なく、誤差が大きいため参考値(以下同様)

空間においては都市化が進み、昔まであった空き地や小さな公園がなくなりつつある。その都市化により子供が気軽に遊んだり、スポーツをしたりする場を奪ってしまっている。組織的なスポーツをする場はある程度確保され、整備されているが、身近な遊び場は減少してきているのが現状である。仲間においては、現代社会の問題の1つである少子化が大きく関わっている。それにより身近な子供たちが少なくなってきた。それに、学校外での習い事をする子供たちが増えてきたため、友達と遊ぶ時間や予定が合わない。というのも現状にある。

2-(4) 諸外国と見比べる

日本のスポーツと海外のスポーツは大きく違う。まず、子供のスポーツ環境では日本では単一種目に力を入れ、その結果環境に合わず、バーンアウトによって大人になる頃にはスポーツ離れをしている場合がある。海外では部活という概念があまりなくスポーツクラブなどで他種目のスポーツに関わる機会がある。その結果ひとつのスポーツに向いていないと感じたとしても他のスポーツを選びなおすことができる。また、スポーツ施設にも違いがある。日本のスポーツ施設は運動をする場所は整っていても自由に使える場所は少なく、運動するだけでくつろいだりするような場ではない。一方海外では、スポーツ施設は運動する場でも運動後お酒を飲みながら食事を楽しむ場として活躍している。日本のスポーツも生活とうまく関わっていくようにしていきたい。

4. 提言

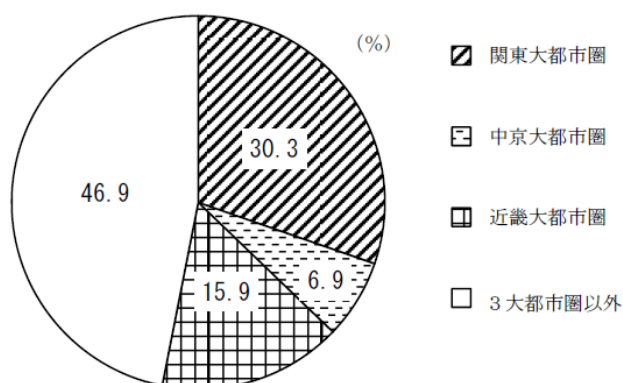
4-(1) なんでもスポーツマンション

なんでもスポーツマンションとは、一つの施設の中で様々なスポーツができる、複合型スポーツ施設の名称である。利用者の対象は主に小学生で、学校の授業の一環として利用することで、授業料から施設維持費をまかなうことを計画している。また、

ウェアの貸し出しやスタンプカードの利用などで施設利用の頻度を上げることを目標とする。施設管理は地域の高齢者や PTA の役員から構成し、積極的な高齢者雇用を目指す。この施設は高さもあり、万が一の災害のときは避難所としても利用ができる。子供にスポーツの機会を与え、将来のスポーツ参加率の増加を目指すことが私たちの提言する「なんでもスポーツマンション」である。

4-(2) 空き家・空き地を再利用

現在、日本における総住宅数は 6063 万戸であり、年々その数は増加している。一方、空き家率も増加しており、平成 25 年には総住宅数の 13.5%である 779 万戸が空き家であるという結果が出ている。(これは別荘等の二次的住宅を除く住宅数となっている)全国の空き家数の割合として日本の三大都市圏内とその他で比べると、三大都市圏内で 53.1%、その他が 46.9%であった。三大都市圏とは、関東・中京・近畿の各政令指定都市及び東京都特別区部を中心とし、その周辺市町村を含む地域
また、空き家の内訳として、賃貸用の住宅が 52.4%、売却用の住宅が 3.8%で供給可能な住宅が過半数を占めている。



5. まとめ

今ある供給可能な住宅を利用して、なんでもスポーツマンションを作っていくことを目標とする。このプランの特徴は子どもの運動する場を確保し、様々なスポーツを経験することで、将来のスポーツ実施率向上に繋げることである。
これが実現することで子どもの体力向上が見込まれ、三つの間の減少が解決されると思われる。